

公園をみる・観る

=再びクロツラヘラサギを思う=

今冬もクロツラヘラサギたちが山口湾にやって来た。公園でも採餌したり休憩したりする姿が見られることがある。彼らにとっても公園は憩いの場となっているようだ。



クロツラヘラサギは遠目に見るとサギと見まがう真っ白い体をしているが、近づいたのを観ると黒くて長あ〜い飯杓子状の嘴を持つユニークな顔をしている。「黒いつら（顔）をしたサギに似たトリ」ということでクロツラヘラサギと呼ばれるがサギではなくトキの仲間である。絶滅危惧種に指定され、繁殖地の韓国や越冬地の東南アジア、日本などで保護の対象となっているが、最近では4000羽近くまで生息数を増やしている。主に朝鮮半島西海岸で繁殖し、10月初旬になると越冬のため南下を始める。越冬地は台湾が多いが近年日本、特に九州・山口にもやって来るようになり、今冬も山口湾に最多の30余羽のクロツラヘラサギを確認することが出来る。以前、山口湾に越冬にやって来るクロツラヘラサギが増えつつあり、そのあたりの環境が韓国のクロツラヘラサギ繁殖地に似ていることから、山口湾に接する榎野川河口に彼らの繁殖地を整備し自然環境保護と観光産業振興を考えてはという案があるらしいと記したが（よしきり81号 2016.5）最近もっと現実的なクロツラヘラサギとの関わりかたについての話が聞こえるようになった。

日本へ越冬にやって来るクロツラヘラサギが増えるとともに、防鳥ネットやテグスなどに絡まり負傷する個体も増加していることが判明した。負傷や病気のクロツラヘラサギを自然に即した方法での手当とりハビリを施す施設を作ろうという話だ。その施設で傷病クロツラヘラサギたちが手当て・リハビリを受けている間、人間も彼らとのより深い関わりを持てるというオマケもついてくる。前出の繁殖環境を整えて云々という話に比べ、より具体的にクロツラヘラサギの保護に繋がるものと、この話の進展を期待を持って見守りたい。

（土×土）

Sさんの、あんなとりこんなとり



前号掲載のKさん家に来るジョウビタキのタキちゃん、可愛いですね。我が家にもジョウビタキがやって来ます。毎年11月が近づくと我が家にも小鳥がやって来ます。その姿を見つけると私はミルワーム（虫）を買いに行き餌台に置いてやります。朝には私の起きるのを餌台の近くの枝で待つようになります。去年の秋に来ていたジョウビタキは、胴長でオッサンぽかったのですが、今冬のは若いのでしょうか、くるんとかわいい姿をしています。3月中旬過ぎには、挨拶もなくいなくなります。でも私は彼らが無事に渡ってゆき、元気に子育てをしますようにと祈ります。

註：ジョウビタキは春近くなると繁殖地、ロシア極東部あたりに渡って行きます。

riguiz